

令和2年7月伊勢原市教育委員会定例会議事録

1 開催日時

令和2年7月28日（火）午前9時30分から11時53分まで

2 開催場所

市役所 3階 全員協議会室

3 教育長及び委員

教育長	鍛代	英雄
委員（教育長職務代理者）	渡辺	正美
委員	永井	武義
委員	重田	恵美子
委員	菅原	順子

4 説明のために出席した職員

教育部長	谷亀	博久
学校教育担当部長	石渡	誠一
参事（兼）歴史文化担当課長	立花	実
教育総務課長	熊澤	信一
学校教育課長	守屋	康弘
教育指導課長	今井	仁吾
社会教育課長	山内	温子
図書館・子ども科学館長	倉橋	一夫
教育センター所長	須永	尚世

5 会議書記

教育総務課総務係長	大澤	貴之
-----------	----	----

6 傍聴人

30名

7 議事日程

日程第1	前回議事録の承認	
日程第2	教育長報告	
日程第3	議案第10号	令和3年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択について
日程第4	議案第11号	令和3年度伊勢原市立中学校使用教科用図書の採択について
日程第5	議案第12号	令和3年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級

において使用する教科用図書の採択について

----- ○ -----
午前9時30分 開会

○教育長【鍛代英雄】 定刻となりました。ただいまから教育委員会議を開催いたします。

----- ○ -----

日程第1 前回議事録の承認

○教育長【鍛代英雄】 それでは、日程第1「前回議事録の承認」について、
お願いします。

○教育長及び委員全員 承認

----- ○ -----

日程第2 教育長報告

○教育長【鍛代英雄】 続きまして、日程第2「教育長報告」をいたします。
本日は、教科用図書採択に係る要望等について御報告をいたします。

令和3年度使用教科用図書の採択に当たり、事前に4件の要望等が寄せられて
おりますので、報告をいたします。

1件目は、6月23日付で、神奈川労働弁護団、社会文化法律センター神奈川
支部、青年法律家協会弁護士学者合同部会神奈川支部、自由法曹団神奈川支部の
法律家4団体から、「育鵬社教科書に関する意見書」。

2件目は、7月14日付で、いせはらの教育を考える会より、「伊勢市立中学
校用教科書採択に関する要請」。

3件目は、7月20日付で、在日本大韓民国団神奈川県地方本部地方団長より、
「望ましい中学校歴史・公民教科書採択を求める要望書」。

4件目は、7月21日付で、自由法曹団神奈川支部支部長より、「中学校公民
教科書採択についての要請書」でございます。

教育委員の皆様には、以上4件の要望書等と併せ、教科書展示会等でいただき
ました御意見等をまとめたものを既にお配りさせていただいておりますが、教科
書の採択権者であります教育委員の皆様は、様々な視点から教科書の研究検討を
行い、公正かつ適正な採択を行うこととされておりますので、採択に当たり、改
めて御報告をさせていただきました。

以上4件の報告でございますが、御質問などがありましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。ないようですので、次に移ります。

----- ○ -----
日程第3 議案第10号 令和3年度伊勢原市立小学校使用教科用
図書の採択について

○教育長【鍛代英雄】 続いて日程第3、議案第10号「令和3年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 議案書の1ページを御覧ください。議案第10号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条、同法施行令第15条の規定に基づく、令和3年度伊勢原市立小学校において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

今年度は、令和元年度に採択した教科書及び発行者について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第19条による、教科用図書発行者指定の取消しに該当する事柄がありませんでしたので、令和元年度に採択した教科書を採択するという前提で提案いたすものでございます。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。御質問等がありましたらお願いします。

ないようですので、採決に入ります。議案第10号「令和3年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択について」、賛成の方は挙手をお願いします。

○教育長及び委員全員 挙手

○教育長【鍛代英雄】 挙手全員。よって本案は原案のとおり可決決定いたしました。

----- ○ -----
日程第4 議案第11号 令和3年度伊勢原市立中学校使用教科用
図書の採択について

○教育長【鍛代英雄】 続きまして、日程第4、議案第11号「令和3年度伊勢原市立中学校使用教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 議案書の36ページでございます。議案第11号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項、及び第14条、同法施行令第15条の規定に基づく、令和3年度伊勢原市立中学校において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

提案理由といたしましては、令和3年度伊勢原市立中学校において使用する教

科用図書を採択する必要があるためでございます。

現在、中学校で使用しております、「特別の教科 道徳」を除く種目の教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令に基づき、平成27年度の採択により、平成28年度から平成31年度までの4年間と、令和元年度の採択により、令和2年度の1年間、合計5年間、同一のものを使用しております。また、「特別の教科 道徳」については、平成30年度の採択により、平成31年度から令和2年度までの2年間、同一のものを使用しております。

その使用期間が終了いたしますことから、令和3年度から令和6年度までの4年間使用いたします教科用図書を、ここで改めて採択をしていただくということです。

また、教科用図書の採択につきましては、文部科学省から出されております教科書目録に登載された教科書のうちから採択することになっております。39ページから順に添付されている一覧が、その文部科学省から出された教科書目録一覧でございます。

教育委員の皆様による御審議をお願い申し上げます。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。審議、採決に入る前に申し上げます。本日の採択に先立ち、伊勢原市教科用図書採択検討委員会を設置し、採択に係る必要な事項の調査研究及び協議をしていただいております。

先日開催されました検討委員会の会議に、教育委員の皆様全員、また私もオブザーバーとして出席し、調査研究の内容を確認させていただきました。また、検討結果を書面でも頂いております。

よって、委員の皆様は、検討委員会での検討結果について既に把握されていらっしゃると思いますので、改めてこの場では検討委員会での検討結果の報告はいたしませんので御了承ください。

次に、審議、採決の方法でございますが、まず、委員の皆様から順番に御意見をいただき、御意見が出そろったところで採決を行います。採決はお1人1回の挙手とし、過半数をもって決することとし、全員の挙手が終わった時点で終了いたします。

それでは、これから種目ごとに委員の皆様にご意見を伺って、採決をいたしたいと思っております。

まず国語でございますが、4者から発行されております。御意見を申し上げます。

それでは、永井委員から申し上げます。

○委員【永井武義】 国語は全ての教科の根幹、ベースであり、読む、書く、聞く、話すという能力を豊かにし、言語能力をいかに他教科で活用するか、また日常生活で生かせるかという意味で重要な科目です。

各社とも巻頭に流れが記されています。三省堂はステップ1「目標の確認」から、ステップ5「学びを振り返る」さらにプラスアルファ「学びを広げる」まで

の流れが非常に明確な印象です。

これまでも、読み物や古典の内容が充実していた光村図書出版は、巻末資料もあり、とても活用的です。

各社とも本の紹介に特徴が表れ、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書出版は教材の学びから読書へ広げる工夫が見られ、読書活動の充実が図られています。

古事記について、東京書籍と三省堂に掲載があり、古歌、和歌と共に取り上げられています。三省堂は、「因幡の白ウサギ」と「ヤマタノオロチ」の2つがあり、古典への興味、関心を広げられると思います。

各社とも、各章に漢字練習問題が設けられていますが、三省堂、教育出版、光村図書出版が充実していると感じました。

他教科とのつながりの観点では、各社とも多くの教科との関わりが見られ、三省堂は文学作品が年表（歴史）、「平家物語」は見開きの源平合戦（歴史）、「奥の細道」行程図（地理）などが印象的でした。巻末の学習用語辞典や一覧は各社の工夫が見られ、三省堂は学習に役立つ用語として、「ブレインストーミング」や「ワールドカフェ」など、話し合いの方法が多く含まれています。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。それでは渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各社とも、いわゆる話すこと、聞くこと、書くこと、読むことなどの狙いを意識した学習活動が、様々な文学作品や資料などを通して準備されております。また、図・絵や写真、解説などは教材の各所に配置されていて、できるだけ子供達に親しみやすく、イメージを膨らませやすくするような工夫もされていると感じました。

ただ、私は光村図書が、教材ごとに学習の狙いが整理され、目標が明示されている、また言語活動の指導に関する工夫も、よりにされていると感じました。それから、教材の中における語句の解説などが、作品の具体的内容に沿った説明で、内容も深めやすいと思いました。それから、知識や感性を広め、高めるための様々な読書案内、季節のしおり、学習を広げていくというコーナーなども、このようなものを高めるために使われると思いました。

扱っている作品も、童話や、感動を生みやすく、思考を深める名作、それから科学的事象に関する作品、古典、芸能などがあると感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 国語の種目別観点としては、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことがモットーとされていますが、それは各出版社共に資質能力の育成の為に工夫・配慮がなされ、甲乙つけ難いものでした。

中でも光村図書は、「価値を語る」というところで、イタリアルネサンスの著名な画家の作品、ボッティチェリやミケランジェロやレオナルド・ダ・ヴィンチを紹介し、中でもダヴィンチの「最後の晩餐」の美術評論家の詳しい解説を起用しているということは、私にとっては画期的であり、大変すばらしいことだと思

います。

美術評論家は、作品をいろいろな角度から研究、考察し、大なり小なり論文と同じように文章化し、人々に説明します。それは国語の資質・能力をもって文章化されるものであり、中学生にとっては、他の教科である美術との連携により、芸術に理解を深めることにもなります。

国語の教科書としての、話す、聞く、書く、読む資質・能力を育成するための題材として起用されるということで、芸術の鑑賞の仕方を理解し、今まで芸術に関心がなかった中学生も、作品の見方、説明の仕方が自然に出来るようになることが期待されます。

観点として、話すこと、聞くことでは、グループディスカッションができるように工夫され、また書くことでは、情報整理から根拠を明確にしたり、意見をまとめ、構成や展開を工夫して書けるようにされています。読むことでは、和歌の世界では「古今和歌集」、「新古今和歌集」、松尾芭蕉の「奥の細道」など、物語や随筆、詩、古文、漢文、古典ではいろは歌や「竹取物語」など、歴史や時代背景も盛り込みながら学べるように工夫されています。

また現代文学では、太宰治の「走れメロス」や、向田邦子の「字のない葉書」、「君たちはどう生きるか」などの生き方や、ヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」で自分を見つめ、ものの見方を深めて、考える人になるように呼びかけています。

具体的に、「学習の窓」というものがあり、それぞれ具体的に誘導する工夫がなされ、巻末には分かりやすく文法がまとめられています。

「本の世界を広げよう」というところで、いろいろな読書の紹介がされています。ファンタジー物や生き物、自然、友達、言葉、情報の図書、コラムなど、いろいろまとめられていて、私は光村図書が一番いいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は第1に三省堂、次いで光村図書がよいと思いました。三省堂は、学習の手引に当たる「学びの道しるべ」が丁寧で、素材を深く、きめ細かく読み進めるだけでなく、「思考の方法」という欄で、抽象化、仮定、比較、関連づけといった方法を紹介し、「語彙を豊かに」という欄では、教材の中に出てきた表現と類似の表現を紹介するなど、素材を基に知識や語彙、思考を大きく広く膨らませ、汎用できるようになっていると思います。

また、各学年の最初のほうに「読み方を学ぼう」という教材があり、1年生で論説文の基本構造、2年生で論の展開、3年生で批判的な読み方が、極めて明示的に解説されています。どの社の教科書にも、近代の名作として太宰治の「走れメロス」が載っているのですが、それ以外の作品が少ないのに対し、三省堂では1年生で芥川龍之介の「トロッコ」、3年生で夏目漱石の「坊っちゃん」が取り上げられており、特に「トロッコ」は、地元神奈川県湯河原町が舞台である上に、御自分が読書に興味を持ったきっかけが「トロッコ」であることを記した、中学生にもなじみがある又吉直樹氏の文章も載っていて、伊勢原の中学生が興味を持ちやすく、また、ぜひ読んでおいてもらいたい作品であると思います。

以上から、私は国語の教科書として三省堂が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に私から意見を申し上げます。国語科につきましては、学習指導要領において、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、光村図書出版の教科書は、「語彙を豊かに」では、思考や表現の助けとなる語句の意味を示したり、語の広がりを表したりする言葉が、学年ごとに系統的にまとめられています。また、主体的に学習に取り組めるよう、教材に続き手引となる「学習」が設けられています。さらに、「思考の地図」が必要に応じてすぐに確認できる巻頭にある折り込みなどの工夫もされておりますので、光村図書出版の教科書がよいと考えます。

これで意見が出そろいました。ほかに御意見等があればお願いします。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで、1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。

三省堂がよいという方は挙手をお願いします。挙手2名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。三省堂2名、光村図書出版3名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、国語で使用する教科用図書は、光村図書出版のものと決定いたしました。

続きまして、書写でございますが4者から発行されております。

それでは、順番に御意見をお願いいたします。

渡辺委員。

○委員【渡辺正美】 各社とも、学習の見通し、学習の目標が明示されており、特に、文字を書く姿勢や道具の扱い方、筆遣いも適切に、それぞれ特色はございましょうが、掲載されていると思いました。

また、楷書、行書、それからかなの字形などの学習、また目的に応じた活用法も示されておりました。

東京書籍に関しまして、特に姿勢や道具の扱い指導が適切で、硬筆、毛筆のつながりが意識され、日本の文字や解説、写真等の大きさを、活用しやすいと思いました。私は、国語の教科書と同じほうが、指導上、連携・活用しやすいのではないかとも思いましたが、書写は指導時間数も少なく、指導内容も限定的なので、活用しやすいもの、教科書と別の出版社のものでもよいと考えました。

東京書籍は、巻末の「書写活用ブック」の資料は、実生活の中でも活用しやすいと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は、光村図書出版と三省堂になりますが、光村図書

出版がいいと思っています。というのは、書写を学ぶに当たり、二次コードから書く道具が生まれるという中で、書写に必要なすずりや和紙、墨ができる工程などを紹介し、文化を担う道具を見直しています。また、手書きの手紙の書き方、手紙の構成要素から時候の挨拶までを学ぶこともできます。

他社に劣らず、巻末には行書、楷書の一覧があります。また、象形文字から漢字まで幾つかの表記があり、興味深く、巻末の二次コードからは、書道博物館に入ることができます。その書道博物館に入りますと、漢字の始まりからその歴史、歴史的背景を学ぶこともできます。筆運びは、「トン・スー・トン」で分かりやすく説明されております。

よって、光村図書を推薦します。

○教育長【鍛代英雄】 菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は東京書籍が最もよいと思いました。美しいお手本を掲げるだけでなく、初めのほうに、いかにも稚拙な硬筆の文字が例示されていて、どこをどう直したらよいか考えようという課題があって、自分の文字を振り返り、具体的な改善点を発見するきっかけになると思います。

また、筆の穂先を表すキャラクターが、「トン・スー・ピタ」「トン・スー・グー」といった掛け声とともに、筆運びや力の入れ方、抜き方を分かりやすく示しています。さらに、はがきや手紙、楷書と行書のTPOによる使い分けといった、実生活に役立つ実用的な学習と、文字や用語の歴史、芸術としての書といった歴史的・芸術的側面からの学習がバランスよく含まれていると思います。

以上から、私は東京書籍がよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 それでは永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 書道は日本固有の文化と言えますが、姿勢や持ち方、構え方の基本が大切です。各社冒頭に掲示されていますが、三省堂が最も詳しい印象を感じました。

重田委員や菅原委員の御指摘もありましたが、「トン・スー・ピタ」等の音で表現しているのは覚えやすいと思います。

点画の種類と筆遣いについて、東京書籍、三省堂、教育出版は見開きで取り上げていて、基本を印象づけ、関心を持たせる工夫が感じられます。中でも三省堂は力強く表記されています。

毛筆の見本では、東京書籍、三省堂は左側、教育出版は右側に手本、反対側に書き方が記され、光村図書出版は見開き縦型となっています。

東京書籍、教育出版はA B判、三省堂、光村図書出版はB判の大きさと、生徒の机の広さを考慮すると、あまり大きくないほうが使用しやすいのではないかと感じます。

私は国語と同様、三省堂がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に私から意見を申し上げます。各発行者のうち、東京書籍の教科書は、自ら課題を見つけたり考えたりすることにつながりやすい構成になっています。また、穂先の通り道が視覚的に分かるように朱墨文字が掲載されていたり、

筆の動きを音で示していて、分かりやすくなっています。

さらに、様々な書式がまとめられている「書写活用ブック」に、礼状の作成や入学願書等の書き方や人名漢字が掲載されており、他教科の学習や日常生活に役立つようになっておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

意見が出そろいました。ほかに何か御意見があればお願いします。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで、1回挙手をお願いします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

三省堂がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍3名、三省堂1名、光村図書出版1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、書写で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして、社会の地理的分野でございますが、4者から発行されております。

それでは、順番に御意見ををお願いします。

重田委員からお願いします。

○委員【重田恵美子】 東京書籍、帝国書院のどちらかと思ったのですが、東京書籍は、地形と自然災害などを見るのに、地形を眺めながら、交通機関、またそれに伴う他県とのつながり、産業の発展や変化を学ぶことができます。また、「振り返ろう」のところで、書き込める課題があり、「探究のステップ」で世界と比較をしたり、「みんなでチャレンジ」ではそれぞれの意見を整理し直し、図を完成するコーナーもあります。

また、伝統工芸品も地図を見ながらまとめられていて、各ページの下の段には「トライ」があり、各々に考えさせるようになっています。他の人の意見を発信し合える学習の工夫もされています。

そして、地域ごとの伝統工芸品の紹介をしながらも、その中で現在、自然災害などの被害に遭っている地域の、これからの新しいまちや社会をどうやって築いていくのかを考えることが重要視されています。その考えを発信するテーマを設定し、歴史・公民分野のマークがあるので、連携学習が可能となります。そこで関連づけた今日的な課題に迫ることが可能となり、これからの地域の在り方に課題を見つけて、クラスの中で発表し、そこで互いの意見交換を望めます。今までの産業を守りながら、よりよい新たなまちづくりとして、活発な意見を出し合えることを期待して選びます。

○教育長【鍛代英雄】 では菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は第1に帝国書院、次いで東京書籍がよいと思いました。帝国書院は、各章末尾の「学習を振り返ろう」が、学んだことの基礎基本の定着をまず重視した上で、その知識を基に、3ステップで考えを深め、最終的に話し合いなどを経て、持続可能な社会に向けて考えるというように構造化されてお

り、先生、生徒双方が過度の負担なく、質・量ともに適度な言語活動に取り組むことができるように工夫されていると思います。

また、振り返りの末尾には、「私たちとの関わり」という問いかけがあり、世界や日本の各地方と私たちがどのように関わっているか、関わっていけばよいのかを考えさせるようになっています。

構成や発問だけでなく、内容的にも、鎌倉市のハザードマップをはじめ、神奈川県に関する資料も多く、昨今この地域で生活する上で知っておくべきプレートや南海トラフについても言及していること、また4者の中で唯一、世界の各地域について勉強する前に、世界各地の様々な気候について、各所の雨温図を全て並べて比較検討させ、概略をつかめるようになっていることなど、総合的に見て帝国書院が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 さきに中央教育審議会の部会で基本方針が示され、高校に教科の枠を超えて、環境問題に取り組む新学科が設けられる案が出ていますが、これからの高校への接続も含めて、持続可能な社会の実現という観点で、各社で観光やエネルギー、防災、環境、共生等、他分野と関連して、各所に掲載されています。

帝国書院では、表紙裏に具体的に17の目標と世界の様々な取組について取り上げ、「未来に向けて」という25のテーマで、生徒に分かりやすい形で紹介しています。

小学校との円滑な接続という観点では、教育出版は巻頭で「小学校の社会科の学習を振り返ろう」が示されています。

また、帝国書院では、各ページの下端に表記があり、歴史・公民との関連も含まれています。

以上、総合的に見て、私は帝国書院がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 4者あるのですが、それぞれ、学習に関して学び方を示して、図・絵、写真を豊富に使って、さらに吹き出しなどでの補助的な発言、とにかく子供たちが親しみやすく学習できるような工夫もされていると感じます。

この中で、帝国書院が、1時限見開き2ページで編集されており、また、学習ごとに学習課題が示され、最後には確認事項や言語活動に関する学習内容も示されておりました。

さらに、各項目で、学習内容に沿って、イメージしやすくなるように写真や絵図、地図、グラフなどがかなりありました。そして、特に帝国書院は、神奈川県に関する記載も、内容の中にそれなりに多くありました。文字や重要事項は太い字で示されているというようなこともありました。

以上で、帝国書院がよろしいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

最後に私から意見を申し上げます。社会科の地理的分野につきましては、学習指導要領において、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を探究し

たり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、帝国書院の教科書は、情報活用能力を育成するための「技能をみがく」が掲載されており、特に「ハザードマップの読み方」や「防災情報の入手のしかた」の部分は分かりやすくなっております。

また、SDGsの意義への理解を涵養するために、環境、防災、共生を主題とした「未来に向けて」や、「地球の在り方を考える」が設けられています。

さらに、神奈川県に関する資料がほかの教科書と比べて幾分多く、本市の近隣の地名も掲載されておりますので、帝国書院の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等がありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで、1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。

帝国書院がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍1名、帝国書院4名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、社会（地理的分野）で使用する教科用図書は、帝国書院のものと決定いたしました。

続きまして、種目を入れ替えまして、地図の採択を行います。社会の地図でございしますが、2者から発行されております。

それでは、順番に御意見をお願いいたします。

では菅原委員からお願いします。

○委員【菅原順子】 私は帝国書院の地図がよいと思いました。カラーがくっきり鮮やかで見やすいこと、また判が大きい分、一つ一つの地図が大きくて見やすく、特に神奈川県を含む関東南部の地図は、三浦半島や箱根方面を含めて神奈川県的全貌が入っているので、学習だけでなく、家庭や生活の中で使う上でも使いやすいと思いました。

世界のほかの地域の地図にも、日本はどの緯度に位置しているかが並んで示されており、南アメリカやオーストラリアといった南半球の地図上にも、北半球であれば日本はどの位置にあるかが示されていて、生徒の興味が広がると思います。

災害、防災のページでは、駿河トラフ、相模トラフ、フィリピンプレートや太平洋プレートといった、神奈川の子供が知っておくべき大切な情報も、地図上に分かりやすく示されています。

巻末の各種統計資料も、地方ごとに色分けされていて、分かりやすいと思います。

以上から、私は帝国書院の地図がよいと考えました。

○教育長【鍛代英雄】 では永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 両者とも、表紙の裏に見開きの世界地図が掲載されてい

ますが、帝国書院は経線による時差が細かく表示され、全体を通して各図法の多くの地図に縮尺と距離が明示されています。A4判で大きい分、見やすく、資料も豊富です。また、各大陸の鳥瞰図にイラストや絵図が多く、一見親切過ぎると思われませんが、イメージを膨らませることができると感じました。大陸から見た日本の地図では、交易・交流、文化・外交、領土、資源開発など、視点を変えて発展的な学習ができると思います。

両者とも領土について工夫した記載がありますが、帝国書院では、国境の変遷が記されています。その他、帝国書院では、自然災害に対する備えや防災への様々な取組では、災害意識を高め、イメージを膨らませる工夫が凝らされています。さらに、日本の水産業では海流と漁獲物が記され、社会とのつながりの中で発展的な学習と言えます。

一方で、東京書籍では、家畜の飼育頭数、木材の生産量等、産業の実態を理解しやすいデータが掲載されています。また、世界のインターネット利用率、携帯電話の普及等、現代社会を考えるテーマが掲載されています。

それぞれ工夫が見られますが、私は帝国書院がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 それぞれに高度差や土地利用も要約されて工夫されていると思います。それから資料なども、自然、産業、日本や世界の統計、このようなことも工夫されて編集されており、大差がないと思います。

大きな違いは、帝国書院のほうが図判が大きいということで、先ほど菅原委員からもありましたが、ぱっと広げて関東地方を見ると、三浦半島も箱根のほうも神奈川県が切れずにそのまま見ることができる点も、利用しやすいと思いました。

それから鳥瞰図が、世界も日本もかなり、高度差も含めて特色的に表れているのですが、ちょっと極端に特色をつけ過ぎているかなと思うけれど、中学生に特色をつかんでもらうためには、このぐらいのほうが理解しやすいのかなとも思いました。

それから、大きな違いは、地図の最初のところで、帝国書院はまず世界の気候、地形があって、様々な課題が生じているというような編集です。東京書籍のほうは、最初に様々な現代の課題が出てきております。

ただ、小学校の地理の勉強は、昔、我々がやっていたときのように、すごく詳しく世界の地形や気候などを勉強している時間はございません。もう少し簡略化されています。

そんな中で中学へ来て、初めて世界を大きく見渡したときに、やはり世界の大きな地形がどうなっているのか、どのような気候帯の中で人々が暮らしているのか。さらには、そういう人々の暮らしを決定づけているのが、現在はいわゆるプレートテクトニクスという議論で、結局、大陸がかなり動く。そういう中でいろいろな気候変動が起こったり、海流の変動が起こったり、何万年か何十万年かの単位で起こっているというようなことも分かっているわけです。

ですから、そのようなことを最初にしっかりと、人間の暮らしているこの大地の基礎基本を扱っている、それが帝国書院だろうと思います。そしてそういう中

で、地震や様々な自然災害が起こってくる、それをどうするかという捉え方がされているのは帝国書院かなと思いました。

それからもう1つ、地図帳の31ページから32ページに関しては、かなり特色のある地図で、いわゆる中国、アジア大陸のほうから日本を眺めた地図になっています。これは、我々はいつも、近現代から見ると、日本は太平洋のほうからばかり物を考えるというものですが、そうではなくて、日本の古代国家の形成から現在に至るまでは、中国のほうから文化や様々なものが日本に影響を及ぼしている。そして日本海や東シナ海も、日本の発展に様々な関係がある。そうか、船で行くところというふうに簡単に行けるんだというのが、非常に分かりやすく、理解しやすいビジュアルなものになっていると感じました。

こんなところで、帝国書院がよろしいのかなと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 帝国書院と東京書籍、どちらもいいと思ったのですが、帝国書院は、他の委員がおっしゃるようにサイズが大きいということで、私は逆に、東京書籍のほうはA B判で少し小さめで持ち運びしやすいと思います。そして写真や絵が多く、その説明も丁寧にされていると思いました。

また、歴史・公民と関連づけられ、他教科との関連がされています。そして「ジャンプ」が設けられていて、いろいろな資料を関連させて見ることが可能になっています。難民問題や環境問題などの今日的な問題に課題を見つけ、解決に向かうべくディスカッションにも資料として利用可能となっています。思考力、判断力、表現力を培うための資料として活用、そして問いかけの資料としても活用できるものとして、東京書籍が良いと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では最後に私から意見を申し上げます。他の委員の御意見とも重なりますが、各発行者のうち帝国書院の教科書はA判が採用されていて、より広域の情報のつながりが掲載されているほか、世界の各州について鳥瞰図が用意されていて、位置や空間的な広がりを捉えやすくなっています。また、地図は明るい色遣いで、地図上の文字が読みやすく、高低差がはっきり分かるようにめりはりをつけた鮮明な色分けとなっていて、日本の地形の特徴がつかみやすくなっています。さらに、主体的に地図技能を身に付けられるよう、具体的な活動や学習課題を示した「地図活用」が随所に設けられていますので、帝国書院の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等があればお願いします。

よろしいでしょうか。それでは採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいということで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

帝国書院がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍1名、帝国書院4名でございました。よ

って、令和3年度伊勢原市立中学校、社会の地図で使用する教科用図書は、帝国書院のものと決定いたしました。

続きまして、社会の歴史的分野でございます。7者から発行されております。

では順番に御意見をお願いいたします。永井委員からお願いします。

○委員【永井武義】 重ねてきた検討会、研究会を経て、皆様とは少し違った判断基準となりますが、生徒たちに歴史を好きになってほしい、歴史の事象のみならず、人物や文化、芸術や伝統を含めて興味を持ち、誇りや夢、希望が持てるような社会人になってもらいたいという視点で、教科書を読み比べました。

自然災害や疫病の流行を体験している令和の新時代ですが、グローバル化や国際人としての歩みという観点からも、日本はどういう国なのか、日本人の考え方の特性を、歴史を通してしっかりと学ぶ意義があり、それらも重要な要素として捉えました。

歴史には様々な見方があり、光と影が存在し、過去のことですから解釈のない記述はないと思います。そういう点でもより一層、多面的・多角的に記述されている必要があり、公正に判断しているかということも大切です。

索引を比較しますと、教育出版、日本文教出版、育鵬社は、人名と事項索引が充実しています。またこの3者は、本文中太字で示された重要語句が索引でも太字となっていて、振り返りもしやすいと思います。

帝国書院、育鵬社は、人物コラムが多く、生徒の興味や関心が高まり、歴史学習に深みを加えます。学習指導要領に記された、歴史上の人物を尊重する、適した配慮と言えます。同様に、両者は小学校で既習の人物を表す工夫も見られます。

帝国書院のほう的人物コラムは多いですが、育鵬社は「なでしこ日本史」で16人の女性をコラムに配置し、女性の割合が高く、バランスがよいと思います。

東京書籍、教育出版、育鵬社は、最も古い歴史書、記紀についての記述内容が多く、育鵬社は、国民の祝日との関わり、サッカー協会のシンボルマーク、地名や行事、各地の祭り等との関連記述もあり、より発展的だと思います。

多角的な見方・考え方という視点では、東京書籍では織田信長の記述について、「革新的で古い意見を否定した人物と考えられてきたが、最近では人物像が見直されています。」といった記述や、帝国書院では、北前船と昆布、富山の薬売りの関係性、山川出版では徳川家光と綱吉の武家諸法度を比較、育鵬社では聖徳太子の十七条憲法を全て掲載し、また「歴史ズームイン」で「蛍の光」の歌を通して領土について考える工夫が凝らされています。

学習指導要領にある、「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる」という観点では、皇位の源泉や継承の歴史に触れているかどうかも重要なことだと思われれます。教育出版、帝国書院、山川出版、育鵬社は、神武天皇の記述があり、育鵬社は「歴史ズームイン」で国民と共に歩む天皇が掲載され、終戦のときの御製、被災地御訪問、象徴という役割の一端を紹介しています。

以上のようなことから、私は育鵬社がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 それでは渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各社ともに歴史的な見方・考え方を示して、歴史的事象

の解釈や理解は、時代や立場によって様々に変わってくるということが前提に編集されていると思います。

この中で、東京書籍が、各項目が見開き2ページで編集されて、学習課題が明示され、最後には確認事項や言語活動に関する学習も示されているということ。それから「学習を振り返ろう」は、基本的なまとめや年表もあり、また発展的課題、そのような視点が示されています。さらに「みんなでチャレンジ」は、グループ学習を進めやすいと考えます。それから、歴史全体の中で学習している時代が分かるような年表も、教科書そのものに項目ごとに示されています。さらに、近現代の内容に関しては、内容も量も大体適切なのが東京書籍かなと思いました。

その中で、教科書によって違うのですが、特に、世界史関係が詳しく載っています。ヘレニズムというようなことが、アレキサンダーの辺のことも触れていたり、オスマントルコがどういう役割をしたかも、この教科書だと見やすいということ。それから、江戸時代の鎖国というものを子供たちが理解するには、東京書籍の編集の仕方が理解しやすいのかなとも感じました。

以上で、私は東京書籍がよろしいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 東京書籍、帝国書院の順にいいと思ったのですが、東京書籍は、巻末の年表が、日本が上段、中段には韓国・中国・その他、下段には世界の年表で分かりやすく、それぞれの項目もふんだんに写真を取り入れながら細かく表示されていて、ページの下にはチェックコーナーがあり、地元の大山詣での御神酒杯もありました。写真も充実していて、持続可能な社会に向け、歴史を学ぶことができると思います。

「歴史への扉」は、ユニークな歴史的人物がたくさん並び、大変興味をそそると思います。文化の移り変わりの年表もやはりユニークで、特徴を捉えた人物のイラストが印象深く、絵が描かれているので歴史嫌いでも興味が湧くと思います。

「みんなでチャレンジ」や「考えさせる」コーナー、右下の欄にはトライチェック、左下の欄には今、自分が勉強している時代が全体の年表のどの辺にあるのかということが一目で分かるようになっています。

そういう観点から、東京書籍を選ばせていただきます。

○教育長【鍛代英雄】 菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は第1に東京書籍、次いで帝国書院がよいと思いました。帝国書院は、ヤマト王権、元寇、日本による台湾支配、太平洋戦争など、論議のある呼称や事項について、両論を併記して、注などで丁寧に詳しく説明しています。情報や材料を懇切丁寧に細かく提示しているのに対し、東京書籍は、説明は淡々と客観的・基本的事実に抑え、豊富な資料や写真を示しながら、資料からどんなことが読み取れるか、資料を参考にして話し合ってみよう、写真は何を表しているのか、写真は誰か、などの問いかけによって、生徒自身に読み取らせ、考えて答えを出させる工夫が多いと思います。

章の初めには、その章で学ぶ時代の大きな情報を写真や資料から俯瞰する見開きのページがあり、導入時に時代の流れや特徴をつかみやすくなっています。

「もっと歴史」というページでは、オリンピックの歴史、6世紀からの地震の歴史、人権の歴史、軍艦島も含めたエネルギーの歴史など、別の切り口や枠組み、シフトチェンジした視点を提供していて、特に「メディアの発展が日本を変えた」というページでは、伊勢原にゆかりの深い大山詣の布まねきや御神酒杵が描かれた明治初期の浮世絵が掲載されています。

リンカーンのゲティスバーグ演説の原稿や、真珠湾攻撃の日のハワイの新聞なども掲載されていて、中学生にも理解できる英語の一次資料にも触れることができます。

以上から、私は東京書籍が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では最後に、私から意見を申し上げます。社会科の歴史的分野につきましては、学習指導要領において、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を探究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、歴史の前後関係や大きな流れをつかめるよう、見開きの左下に分かりやすい年表が掲載されています。また、現代社会についての理解を深めるために、グローバル化、情報化などの具体例を挙げて、現在の世界情勢や課題を分かりやすく説明しています。さらに、分野関連マークや他教科関連マークで、他分野・他教科との関連を分かりやすく示しておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

なければ採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。

帝国書院がよいという方は挙手をお願いします。

山川出版社がよいという方は挙手をお願いします。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いします。

学び舎がよいという方は挙手をお願いします。

育鵬社がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍4名、育鵬社1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、社会の歴史的分野で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして、社会の公民的分野でございます。6者から発行されております。

では順番に御意見をお願いします。では渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各社とも、学習の進め方を示して、社会的な見方・考え方を育むための政治・経済・国際社会的な事象の理解を深める工夫は、資料や図絵も使いながら説明されています。

そんな中、東京書籍は、最初に現代社会の現状と課題を基本学習して、集団社会の中でよりよく生きていくことの大切な概念、対立と合意、権利と責任義務、効率と公正、共生する社会というようなことが掲載されています。

そして、学習ごとに、見開き2ページで学習課題が明示されて、最後に確認や「トライ」も用意されています。また、写真、絵図、地図、グラフなど資料も豊富で、興味・関心が湧くように、男女のキャラクターをうまく使いながら、親しみやすい質問も用意されています。それから、チャレンジ欄やアクセス欄で、学習をより深め、考えるような工夫もされています。巻末の法令集には語句の解説が併記されているというようなこともありました。

東京書籍がよいのではないかと思います。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私も東京書籍がよいと思っています。教育基本法の1条、2条、及び学校教育法の49条、30条の項に基づき、知識、技能の習得に続いて、思考力、判断力、表現力などの育成、思考を整理する方法や学びに向かう人間性を養うために教育がなされるという前提で、東京書籍は「みんなでチャレンジ」を設定し、主体的に、対話的で深い学びについてグループで話し合うことにより、言語能力を養い、また伝統文化の継承、保存すべく小学校での学習の展開など、様々な工夫がなされていると思います。

ページの下段にチェックとトライがありまして、市長になって条例をつくらう、そして市民に寄り添う、市民の声や、自分たちの考えを述べたりし、課題にみんなでチャレンジしようという、理想のまちの実現に向けた考えを述べるコーナーがありまして、ステップチャートでは、理想のまちに近づける方法を考察し、解決案をつくっていく。ひいては、理想のまちの実現とし、それをまとめるように、気づいたことをみんなで話し合っ、考えを述べていく、意見を出し合っっていくという、自分たちで気づいていくという姿勢を養う、培うようなところが見受けられます。

よって、東京書籍を希望します。

○教育長【鍛代英雄】 では菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は第1に帝国書院、次いで東京書籍がよいと思いました。帝国書院は、写真などの配置が整理されていて見やすく、現代社会、政治、経済、国際の4部の各部の導入において、ごく身近な日常生活の場面を示し、その中から現代社会、政治、経済等に関連のあることを探させる課題から始まっていて、公民の基本に日常生活があることを実感させることで、勉強へのモチベーションが上がるのではないかと思います。

また、ヘイトスピーチ、フェイクニュース、ポピュリズムなど、今日的な課題として中学生も知っておくべきことが多く取り上げられています。

若年層の低投票率に関しても、ほかの教科書では、ただそれを物語るグラフを示すだけなのですが、帝国書院は、若者の投票率が低いとどのような影響があるか、若者の政治参加がなぜ必要かということについて、問題意識を持たせ、励ます記述となっています。

さらに、6点ある「先輩たちの選択」という特設ページの中の1つ、「働くことの意義」というテーマにおいて、伊勢原市の酪農家、石田牧場の石田陽一さんが1ページにわたって取り上げられていて、雇用と納税による地域貢献について語っていらっしゃいます。地域の若手が大きく取り上げられているのは、伊勢原市の中学生にとって誇りと励みになると思います。

以上から、私は帝国書院が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 検討委員会の中で、地理、歴史、公民の出版者の違いについて、現場でのやりにくさはないというお話がありました。また、先生からは、公民の言葉は生徒には難しいという御意見があったが、定着を図るための工夫が、東京書籍、日本文教出版、育鵬社、自由社にはあり、分かりやすいというお話がありました。

各者とも、重要語句はゴシック体、太字で表記されていますが、自由社はゴシック体の重要語句は全て索引に登録されていると表記され、索引も非常に多く、理解や振り返りにも配慮がなされています。

公民の学習の始まりに、各社とも地理や歴史との関係や、現代社会、また未来とのつながりについて掲載されています。教育出版、帝国書院、日本文教出版は、様々な関わりやつながりについて触れていますが、育鵬社、自由社は、家族、地域社会、国家、国際社会という4つの枠組みで説明があり、理解が深まりやすいと感じました。震災やコロナ禍で家族の意義を見つめ直す中で、大切な要素だと思えます。

神奈川県に関連したものは、教育出版、育鵬社が多く、育鵬社は平塚市の七夕まつりの写真が掲載されています。

マスメディアやメディアリテラシーについての学習では、各者とも新聞記事の比較があり、帝国書院と自由社は4社の記事を読み比べる内容で、情報活用能力の育成とともに、多角的・多面的な見方・考え方の配慮が施されています。

各者とも、憲法制度と背景、内容について工夫を凝らして掲載しています。育鵬社、自由社では、五箇条の御誓文からの流れを示し、理念や成立過程が詳しく記されています。自由社では、鎌倉幕府の評定会議をミニコラムで配置し、合議を重んじる伝統を示しています。

天皇について、各者とも法の位置づけや国事行為などについて触れています。東京書籍、帝国書院、育鵬社、自由社は、今上陛下の写真が配置され、育鵬社、自由社は象徴としてのお務めについて、コラムや写真で紹介する工夫もあり、新しい時代を生きる人たちに理解が深まると思います。

以上のことから、私は自由社がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

最後に、私から意見を申し上げます。社会科の公民的分野につきましては、学習指導要領において、現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会を主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な、公民としての資質・

能力を育成することを目指すとされています。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、思考力、判断力、表現力等の育成について、まとめの活動で、カードで自分の考えをまとめ、課題を整理する活動を取り入れています。また、探究ステップで持続可能な社会を実現するために、カードや表を使って整理する活動を取り入れています。さらに、まとめの活動で学習した対立と合意、効率と公正等について、継続・発展できるような課題が設定されており、繰り返し学習できるような配慮がされておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしければ採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。

帝国書院がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いします。

自由社がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍3名、帝国書院1名、自由社1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、社会の公民的分野で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして数学でございます。7者から発行されております。

では順番に御意見ををお願いします。重田委員からお願いします。

○委員【重田恵美子】 私は東京書籍を推薦させていただきます。まず、例題があるので非常に分かりやすく、その解き方も参考になっていると思います。巻末にドリル形式に計算問題があり、トライしやすいと思いました。その量も多過ぎず、親切に見ることと思えました。

○教育長【鍛代英雄】 菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私も東京書籍がよいと思えました。定理などの重要事項や、計算の途中経過などが分かりやすく色分けされていたり、問いが見つけやすい配列になっていたり、項目ごとに大きな見出しをつけてページ替えされていたりなど、定理、説明、問いが見やすい、整理された構成になっています。

例題に対応する練習問題は1つに厳選されていて、問題や説明の量も過不足なく、必要十分に用意されていると思います。例題も現実的で無理のない設定のものが多く、ピザの大小、パッチワークの模様、コピー用紙の比率、写真を撮る角度、計量スプーンの大小など、実生活に即して生徒の興味を引く素材が多く提供されていると思います。

以上から、私は東京書籍が最もよいと思えました。

○教育長【鍛代英雄】 それでは永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 学習の基礎を身につけ、定着させるには、対応した問題を解くことが重要ですが、各者とも節末、章末、巻末等に掲載が問題されていま

す。啓林館では2部に、数研出版では巻末に多くの問題が配置されていて充実していますが、基礎の定着という観点では、各者とも十分だと思います。

数学の学習では、学習を振り返るためにノートの作り方、使い方も大切ですが、教育出版、啓林館、数研出版は見開きで掲載し、工夫が凝らされている内容です。

接続について、教育出版は巻末の「学びのマップ」が特に分かりやすい、手厚いという印象です。

各章の扉では、学習内容について、各者特徴を持って掲載していますが、教育出版、数研出版、日本文教出版では、学習前に振り返りが設けられています。

つまずきへの対応としては、東京書籍はダイヤモンドの問題、教育出版は右端に「戻って確認」、日本文教出版は右端に「確かめ」、「間違いやすい問題」等の記載があります。

以上、基礎基本の定着、接続、振り返り、つまずきへの対応といった観点から、私は教育出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 では渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 数学の学び方に関して、それぞれ必ず説明があつて、項目ごとにここでどういう学習をするかの目標も明示されています。そういう中で、練習問題もちろん大事ですので、練習問題も後段に準備されています。

こういう構成はどこも同じですが、特に東京書籍は、学習ごとの目標提示、それから「考えてみよう」という項目で解説し、類似問題が用意され、より多くの生徒がその内容を理解できるように工夫されています。そして、さらに定着を図るための基礎練習問題、さらに発展A、発展Bと練習問題が用意されています。

それから、章の初めには、身近な素材による課題が提示されていて、生徒の興味・関心を引き出しやすい工夫もされています。

文字や数字、図形、グラフ、図絵等も見やすく、色調も落ち着いていると感じました。東京書籍がいいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは、最後に私から意見を申し上げます。数学科につきましては、学習指導要領において、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、学習のまとめりに学習の目当てが示され、例題と似た形の問題に印がつけられているなど、生徒が学びやすい工夫がされています。また、問題がスモールステップで設定されていて、苦手意識のある生徒も取り組みやすくなっています。さらに、実際の販売データを活用した教材を使って、商品の仕入れ判断等の問題解決を図るなど、実社会のデータ活用を体験できる題材が設定されておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いします。

学校図書がよいという方は挙手をお願いします。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍4名、教育出版1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、数学で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして、理科でございませう。5者から発行されております。

それでは順番に御意見ををお願いします。菅原委員からをお願いします。

○委員【菅原順子】 私は、大日本図書が最もよいと思ひました。サイズも手頃であり、写真や図表といった視覚情報も、大きさ、量ともに過不足なく、すっきりと見やすく配置されています。

右側のページに観察、実験の手順、結果のまとめ方のヒントが示され、めくった左側のページに結果の例が示されていて見やすく、特に結果のまとめ方、図の書き方について、生徒の参考になるような例が丁寧に、基礎基本に忠実に記載されています。

火山の分野で箱根、地層の分野で江の島など、神奈川県関連の写真が多く掲載されていること、単元末の問題も、図表がモノクロではなく、分かりやすく色づけされていることなども、生徒のモチベーションを上げると思ひます。

以上から、大日本図書が最もよいと思ひました。

○教育長【鍛代英雄】 永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 各者、単元の終わりに振り返りやまとめ、問題等が掲載されていますが、東京書籍、大日本図書、啓林館は、まとめが体系づけられていて、基礎基本の定着、また生徒が理解しやすいと思ひます。

大日本図書や啓林館は、神奈川県に関連した掲載が多く、大日本図書は県内の施設が多いため、興味や探究心など、発展的な学習につながる可能性があります。

元素の周期表について、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版で利用例の写真が掲載され、工夫が凝らされています。大日本図書のみ、2年・3年両方に掲載されています。

生物や植物の観察では、東京書籍、大日本図書、啓林館は、写真の種類が豊富な印象です。レポートの書き方では、東京書籍、大日本図書、教育出版が充実していると感じました。

「理科室の決まり」では、各者工夫を凝らしていますが、東京書籍、大日本図書では、2年・3年は巻末にも記載があり、安全面も含めて徹底しています。

以上のことから総合的に、大日本図書がよいと思ひます。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各者とも、特に「理科室の決まり」というような項目を設けて、理科学習における実験等での安全への配慮は、各者されていると思ひました。

大日本図書が、学習ごとに内容の解説があり、授業での学習活動は色で囲まれ

ていて分かりやすいなと思いました。神奈川県に関する記載もかなりございました。「暮らしの中の理科」が掲載されており、「やってみよう」コーナーで、実験、観察などの楽しい工夫が紹介されているということもあります。

さらに、実験の基本操作を分かりやすく丁寧に示している中で、特に安全への配慮ということでは、目立つ黄色で、そういうことが起こったときに、具体的にどう対応したらいいかということなども出ているのが大日本図書です。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 では重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私も大日本図書がいいと思いました。カラーも鮮明で、大きさもちょうどよく、紙質もよいと思います。ウェブサイトを利用した学習に対応し、説明が端的で分かりやすくなっています。

1冊にまとまっていたほうが、無くさなくていいと思いますので、こちら1冊にまとまっていました。また、神奈川県の掲載も多いと思います。

図や写真がはっきりしていて使いやすいと思いますし、「やってみよう」が多くて、観察や実験、科学的な思考力や興味を持ち、学びを広げられるような工夫がされていると思います。そして、「暮らしの中の理科」と「サイエンスプレス」では、日常生活との関連づけで学習が可能となっています。

以上で、大日本図書がいいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは、最後に私から意見を申し上げます。理科につきましては、学習指導要領において、自然の事物や現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、大日本図書の教科書は、巻頭の「理科の学習の進め方」で、見通しを持って学習できるように、探究の過程が示されています。また、主体的・対話的な学習ができるように、マークやキャラクターが使用されています。さらに、生命の星・地球博物館や、火山の例として箱根の写真が掲載されているなど、神奈川に関する内容が多く掲載されておりますので、大日本図書の教科書がよいと考えます。

ほかに何か御意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手全員。

大日本図書が5名全員でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、理科で使用する教科用図書は、大日本図書のものと決定いたしました。

続きまして、音楽の一般でございます。2者から発行されております。

順番に御意見をお願いします。永井委員からお願いします。

○委員【永井武義】 「赤とんぼ」で比較しますと、教育出版は「曲の形式を

生かして表現を工夫しよう」、教育芸術社は「情景を思い浮かべながら思いを込めて歌おう」と、表現の仕方に特徴があります。

教育芸術社では、旋律、強弱等、音楽を形づくっている要素のマークがあります。「君が代」では、教育出版は3年間同じ表記ですが、教育芸術社は国歌、国旗、国際儀礼について記され、オリンピック、女子ワールドカップ、車椅子バスケットの写真が掲載され、人権や国際間の協調、多様性について理解が深まる工夫が施されています。

教育出版の「歌うための準備」と、教育芸術社の「マイボイス」を比較すると、姿勢と呼吸の仕方が、教育芸術社のほうが詳細に示され、教材では歌い方のポイントが2点記載され、理解が深まる工夫が凝らされています。

教育芸術社は導入にリズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジなどを配置し、楽しいイメージが持てます。また、6年生からの接続を意識した「We'll Find The Way」という応援歌、オリジナル曲の合唱が始まりとなっています。

教育芸術社は、指揮をするポイントが詳細で、役割についても示されています。

「魔王」の鑑賞では、両者とも曲想の変化と物語の進行について記されていますが、教育芸術社ではキャラクターの吹き出しに理解を広げ、深める工夫が見られます。

両者とも、郷土の民謡を取り上げていますが、教育芸術社は民謡例が多く、地理との関わりもあり、調べ学習についての細かな設定区分が施されています。

以上のようなことから、私は教育芸術社がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 では渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 2者ともに、表現活動に関する教材、それから合唱用の教材、さらに様々な芸能や音楽のことなども豊富に掲載されていると思いました。

教育出版は、それぞれの教材の中で、いろいろな表現方法で音楽を学習できるような工夫がされていると思いました。歌唱教材では、曲のイメージをより感じ取れるような、自然や四季の美しい写真で、それぞれの曲の理解を深めるような工夫がされていると思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は教育出版がいいと思いました。曲のページに写真がありまして、景色の写真を見ながら歌える曲が多かったと思います。

写真を見ながら、ほのぼのと歌えるということが印象的だと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。では菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 甲乙つけ難かったのですが、どちらかというと教育芸術社のほうがよいと思いました。教育芸術社には、「涙そうそう」、「上を向いて歩こう」や映画音楽の「ジョーズ」といった親しみやすい曲、また、「エーデルワイス」、「アメイジンググレイス」、「レットイットビー」といった英語の歌や、「帰れソレントへ」のようなイタリア語の歌といった外国曲も多く、選曲がバラエティに富んでいると思います。

また、リズムが重視されていて、各学年の最初にリズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジといった活動が設定されていて、学年が上がるごとにハイレベルなリズムに挑戦するようになっていきます。

また、クラシック曲を鑑賞する際、「その頃日本では」というコラムで、ビバルディやシューベルトといった作曲家が、日本だとどの時代に活躍したのかが示されていて、その意外性が生徒の興味を引くと思います。

また、どの学年でも「指揮をしてみよう」という課題があり、オーケストラが演奏する「運命」や「カルメン」に合わせて指揮をしてみるという活動が設定されているのですが、生徒がクラシック音楽を身近に親しむ機会となる上に、写真で指揮の指導をするのが、隣の秦野市出身で、現在、世界的に活躍している若手指揮者の山田和樹氏であり、伊勢原市の中学生にとって、音楽の勉強に対する大きなモチベーションになると思います。

以上から、私は教育芸術社がよいと考えました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

最後に、私から意見を申し上げます。音楽科につきましては、学習指導要領において、表現や鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる、資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、教育出版の教科書は、1時間単位でつけたい力やねらいが分かりやすく示されていて、見通しを持ちやすくなっています。また、主体的・対話的な学習が図られるよう、「共通事項」と関連させて、工夫や配慮がされています。さらに、「音ってなあに」で、理科と関連した音の出る仕組みや、音が伝わる速さについての解説が掲載されておりますので、教育出版の教科書がよいと考えます。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

教育芸術社がよいという方は挙手をお願いします。挙手2名。

全員の挙手が終わりました。教育出版3名、教育芸術社2名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、音楽（一般）で使用する教科用図書は、教育出版のものと決定いたしました。

続きまして、音楽の器楽合奏でございます。2者から発行されております。

順番に御意見をお願いします。渡辺委員からお願いします。

○委員【渡辺正美】 器楽のほうで、様々な楽器、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓など、それぞれの教科書でよく紹介されていると思いました。

教育出版は、リコーダーの演奏方法が最初からよく説明され、日本の曲や外国の曲も取り込めるような工夫がされていると感じました。

音楽の授業を展開する上では、器楽も同一出版者のほうが活用しやすいのかなとは感じております。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 では重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私も教育出版です。教育芸術社のほうは、主に打楽器が多くて、教育出版のほうも多いのですが、リコーダーが入っていましたし、私の考えとしては、もっといろいろな楽器を本当は入れてほしいなと思っています。

和楽器にしてもリコーダーにしても、伝統や文化に関わり合いがあるわけなので、その楽器を扱いながら文化を学ぶということも大事だと思っています。

あとは、音楽の教科書を教育出版にしておりますので、同じ教科書会社のほうがよろしいかと思ひまして、教育出版です。

○教育長【鍛代英雄】 それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は、器楽も教育芸術社がよいと思ひました。各楽器の演奏方法だけでなく、それらの楽器が使われている行事や、伝統芸能の写真や鑑賞曲も多く紹介されていて、その中には津軽三味線や阿波踊り、また尺八による「アメイジンググレイス」の演奏、ギターとリコーダーによる「笑点」のテーマの楽譜など、生徒の興味を引くものが多く提示されています。

また、打楽器もバリエーション豊富に紹介されていて、打楽器だけのアンサンブルの楽譜もあり、ほかの楽器や譜読みが苦手な生徒でも、演奏に参加して合奏を楽しめる機会を提供していると思ひます。

以上から、私は教育芸術社がよいと思ひました。

○教育長【鍛代英雄】 では永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 既に音楽（一般）は教育出版に決定しておりますが、事前に考えた結果、私は音楽（一般）と同様に教育芸術社がよいと思ひています。

教育芸術社は、学習の目当てが巻頭に示され、各楽器の名称、姿勢、構え方、奏法について詳細に明示されています。また、資料に楽器の図鑑があり、興味、広がりを持てます。その他、音符、休符、記号、用語が詳細に示されていることも含め、教育芸術社がよいと思ひます。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

最後に、私から意見を申し上げます。各発行者のうち、教育出版の教科書は、取り扱う楽器が主に吹く楽器、はじく楽器、打つ楽器に種類分けして掲載されています。また、リコーダーや和太鼓の演奏における構えや姿勢について、手元を拡大した写真が掲載されており、息の流れについても図で示されているなど、見やすく分かりやすい工夫がされています。

さらに、「さくらさくら」、「荒城の月」、「勸進帳」など、歌唱や鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されていますので、教育出版の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしければ、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いい

たします。

それでは、教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

教育芸術社がよいという方は挙手をお願いします。挙手2名。

全員の挙手が終わりました。教育出版3名、教育芸術社2名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、音楽の器楽合奏で使用する教科用図書は、教育出版のものと決定いたしました。

引き続きまして美術でございます。3者から発行されております。

順番に意見をお願いします。まず重田委員からお願いします。

○委員【重田恵美子】 美術の場合の観点は、生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の芸術文化が豊かに関わるような工夫や配慮がされているかどうか。そして、生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に自分らしい思いや考えを持つための工夫や配慮がなされているかどうか。最後に、A表現とB鑑賞の領域及び共通事項の学習内容を相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているかどうか。そういうことが前提となっており、私は光村図書出版を推薦いたします。

今申し上げました鑑賞や表現の中で、まずピカソの「ゲルニカ」や、西洋のほかの作品に、生徒たちが作者のメッセージを読み解くことが出来る様に、自由にディスカッションすることで、自分たちが何かを描いたり作ったりするときに、何を表現したいのかを考えることができるようになってほしいと思っています。静物画にしても、構図や素材など、なるべく多くの自分なりの世界を自由に作り出してもらいたいと思っています。

作者の言葉やポイントなどもあるので参考になると思います。巻末の年表も見やすく分かりやすいです。そして、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は国語の教科書にもありました。連携して、教材の仕方ができているのですが、でも、国語の教科書のほうが説明は大変奥深く、多くの生徒たちの心に触れることが期待できます。目いっぱい大きい見開きの浮世絵やゴッホの作品も筆のタッチが分かり、とても感動的だと思います。紙質も色も良いと思います。巻末の年表は、先ほども言いましたが大変よくできていると思います。

以上で、光村図書出版が良いと思います。

○教育長【鍛代英雄】 菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私も光村図書が最もよいと思いました。大きさも手頃であるし、紹介されている作品の量や配列が適切で、見開きの左側に鑑賞用のモデルとなる作品、その右側に解説や表現のための手法が丁寧に説明されていて、見やすく分かりやすいと思いました。

1年生の教科書の表紙裏に、美術という教科への導入として、谷川俊太郎氏の「うつくしい！」という詩とともに、生徒が美しいと感じた日常の何げない一場面が、生徒の直筆の言葉とともに紹介されており、技法やテクニックよりも、美を感じる感性を重視しているスタンスが感じられ、製作活動が苦手な生徒でも、教科に対する親しみ、興味を持ちやすいのではないかと思います。

以上から、私は光村図書出版が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 小学校からの接続という観点では、光村図書出版は「美術って何だろう」、「美術で学ぶこと」と説明し、考える手だてが示されています。また、キャラクターの2人の生徒の会話から、絵を描くのが苦手な生徒にも安心感を持たせる工夫が感じられました。

鑑賞の題材は開隆堂、表現の題材は日本文教出版が多く、日本文教出版では、二次元QRコードで作品を360度で見られる工夫がなされています。

光村図書出版に掲載された、谷川俊太郎の「うつくしい！」の詩は、生徒の心に響くと感じました。

神奈川県に関連する掲載は、日本文教出版が多く、光村図書出版は県内の美術館蔵の作品掲載が多く、生徒の関心、本物に触れる機会が身近にあり、学習を深め、発展させることにつながると思われます。

以上のことから、光村図書出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各社ともに、作品や創作活動の場面の紹介では生徒の活動の様子の写真が取り込まれております。

その中で光村図書出版は、各教材の鑑賞や作品の制作過程が、学習活動の流れに沿って立体的に編集されているということ。それから、学習過程で生徒の試行錯誤も扱われており、親近感が湧き、学習活動に生かせるかなと思いました。

それから、日本の伝統文化の紹介、また美術史では、世界とのつながりについてもよく紹介されているように感じました。

巻末には、創作活動に関わる様々な手法や技法について活用できるような紹介もされておりました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

最後に、私の意見を申し上げます。各発行者のうち、光村図書出版の教科書は、生徒の実感的理解を深めるために、図版の上にトレーシングペーパーや越前和紙を再現した用紙が綴り込まれています。また、作品を作ったり鑑賞したりするときに、発想を広げる手がかりとなるよう、発想の手法等を紹介する「みんなの工夫」が設けられています。さらに、身近にあるものや風景、美術作品等から、よさや美しさを感じ取ったり、考えたりして、見方や感じ方を深めることができるよう、全ての題材に鑑賞活動が設定されておりますので、光村図書出版の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いします。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手全員。

全員の挙手が終わりました。光村図書出版が5名全員でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、美術で使用する教科用図書は、光村図書出版のものと決定いたしました。

続きまして、保健体育でございます。4者から発行されております。

それでは、順に御意見をお願いいたします。菅原委員からお願いします。

○委員【菅原順子】 私は、学研教育みらいが最も良いと思えました。見開き1ページで課題をつかむ、考える・調べる、まとめる・深めるという流れがパターンになっており、学習を深めたり定着させたりしやすくなっていると思います。

また、ヒヤリハット、アルコールハラスメント略してアルハラ、メタボリックシンドローム、メンタルトレーニングなど、中学生も知っておくべき今日的課題について数多く触れています。

ウィズという名前のロボットのキャラクターがところどころ出てきて、「欲求不満の解消法は1つではないよ」、「自分の気持ちをうまく表すことができないのも、心が育っていることの表れ」など、ポジティブな声かけをしてくれるのも励みになると思います。

以上から、学研教育みらいが最もよいと思えました。

○教育長【鍛代英雄】 永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 大日本図書は、見開きの本文と資料が見やすく、流れや構成がつかみやすく、関連したトピックスも示されています。

大修館書店は、関連したコラムが豊富で、資料の出展が掲載されています。また、知識が豊富で、振り返りや問いが的確といった印象です。

学研教育みらいは、学習の流れがつかみやすく、コラムが配置され、章末の探求やまとめ、振り返りが充実しています。

1年生の、心身の発達と心の健康に関して、大修館書店は「Q&A 健康相談コーナー」、学研教育みらいは「カウンセリングルーム」が設けられ、思春期の悩みに対する配慮がされています。

リラクゼーションの方法では、東京書籍、大修館書店は、実習後の話合い、振り返りに工夫があります。実習については、大修館が詳しいです。

2年生で、心肺蘇生法の手順やAEDの使い方について、大日本図書は見やすく、大修館書店、学研教育みらいは各部位の手当てが分かりやすく、体験活動の充実が図られています。

感染症予防では、絵図や資料は大日本図書が見やすいですが、知識は大修館書店が充実していて、何のためにマスクをつけるのか考えさせる工夫を凝らした構成内容です。

全体を通して、大修館書店は知識が豊富で、振り返りや問いが的確といった印象です。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 これまでの学習を基にして、生徒の発達段階を考慮しつつ、様々な運動、スポーツ、健康の維持・増進というような行動の大切さを、各方面から扱っている点は、どの出版者も同じだと思えました。

学研教育みらいは、項目ごとに学習の目標が明示されていること、そして学習の課題をつかむ、まとめる、深めるという設定がされております。また、学習への興味・関心を高めるためのイラストや図絵、写真、表、グラフなどもかなり多くあります。また、「実習」、「生かそう」などでは、今後の生活への活用が工夫されているように感じました。

性教育に関しては、発達段階を考慮した穏やかなイラスト等が使われて、編集されていると感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は大日本図書です。B5判サイズで小ぶりですが、イラストや写真などが多く取り入れられ、見やすいものとなっています。

ほかの教科との連携が可能になっていまして、理科や技術・家庭科、社会などとの連携学習が可能のようです。

そして感染症の項目など、具体的に消毒の仕方や対処の仕方が親切に記載しており、実際に大変役に立つと思います。

以上で、大日本図書を推薦します。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

最後に、私から意見を申し上げます。保健体育科につきましては、学習指導要領において、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、学研教育みらいの教科書は、生徒が自らの健康や安全について考え、他者に表現できるような学習活動の工夫として、具体的に意見を出し合う「考える・調べる」コーナーや、学習したことを基に話し合う「まとめる・深める」コーナーが設けられています。また、知識や情報を関連させながら、より深く学ぶことができるよう、巻末に体育実技や各教科などとの関わりを示した、「キーワードで見る保健体育の学習内容」が見開きの表で示されています。

さらに、章末にある「章のまとめ」の最後に、生活への活用として、既に学習した内容から、自分自身の生活に生かしたいことについて考えることができるような学習例が掲載されておりますので、学研教育みらいの教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それではまず、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

大修館書店がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

学研教育みらいがよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。大日本図書1名、大修館書店1名、学研教育みらい3名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、保健体育で使用する教科用図書は、学研教育みらいのものと決定いたしました。

続きまして、技術・家庭の技術分野でございます。3者から発行されております。

順番に御意見をお願いいたします。永井委員からお願いします。

○委員【永井武義】 週1時間、年35時間程度でしょうか。また3年生ではさらに少なくなり、コロナ禍が続くと授業時間の確保が厳しいと考えられる教材の1つではないでしょうか。分量としては凝縮されたものがよいと思われま

す。教育図書は、知識の習得、安全の確認、見方・考え方、加工法が分かりやすく、制作手順が見やすく、技能を掲載した別冊は実習での活用によいと感じました。

東京書籍は「学んだことを社会に生かす」、教育図書は「先輩からのメッセージ」が配置され、技術関係の進路を含めて、将来を考えるきっかけになると思われます。

教育図書には、Society 5.0の特集が設けられ、IoT、AI、ロボット等、今後の社会との関わりを考える活動があります。

以上のようなことから、教育図書がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各者とも、学習の進め方、実習、実技での安全管理ということの配慮がなされていると感じました。

東京書籍が、ガイダンスが18ページ用意されています。そして、技術科学習の必要性や目的が解説されて、3年間の学習の見通しが持てるように工夫されています。それから、各学習に目標が明示されて、活動内容に関する写真、絵図も分かりやすく、最後に「まとめよう」や「生活に生かそう」で、実生活への活用が意識されるように工夫されていると感じました。

また、作業場面の写真などで、中学生の姿が多く使われており、なじみやすく感じました。

テックラボや問題解決例などの発展的な説明も、実生活で活用しやすいのかなと感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は東京書籍です。実際の作業について、親しみやすいキャラクターを用いて、楽しく作業ができるように工夫されていると思います。また、材料加工の技術で、見ながら加工できるように分かりやすく説明・紹介されていると思いました。

○教育長【鍛代英雄】 菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は東京書籍がよいと思いました。基本を重視していて、基本的な作業の説明に、手元を大きく映した写真が用いられていて分かりやすいと思いました。全体的に情報量が適切で、図や写真が見やすいと思います。

各編の末尾にある学習のまとめも、単なる評価の対象としてではなく、よい復

習になるように工夫されていて、モノクロではなくカラーでモチベーションが湧きやすくなっており、特に「生活に生かそう」では、生活に生かせる具体的でクリエイティブな課題が設定されていると思います。

以上から、私は東京書籍がよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では、最後に私から意見を申し上げます。技術・家庭科の技術分野につきましては、学習指導要領において、技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、対話的活動を取り上げた「活動」や、キャラクターが対話することで、設計要素を検討できるように例示した「問題解決例」が掲載されています。また、材料と加工の技術では、生徒自身が教科書を見ながら使用する技能を取捨選択できるように、多彩な加工方法が紹介されていたり、検査・修正の方法が示されております。

さらに、SDGsについて技術が果たしている重要な役割を分かりやすく考えられるように、「SDGsとテクノロジー」が設定されておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

教育図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍4名、教育図書1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、技術・家庭の技術分野で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして、技術・家庭の家庭分野でございます。3者から発行されております。

順番に御意見ををお願いします。それでは渡辺委員からお願いします。

○委員【渡辺正美】 各者とも学習の進め方を示しており、実技や実習での安全喚起は配慮されていると思いました。それから、男女の共生を意識し、関連資料も豊富に掲載されており、実生活でも活用できるようにという工夫がされていると思いました。

特に教育図書が、学習ごとに、見つける、学ぶ、振り返るの学習の流れが明確になっていると感じました。特に、男女の共修ということで、様々な実習のことなどを考えますと、調理実習などで調理手順が、教育図書の場合は縦に順番に分かるように示されており、非常に分かりやすいのかなと感じました。そのほか、学習内容に沿った写真や絵図も親しみやすく感じました。

もちろん東京書籍も、これまで使われていて、よろしいと思うのですが、私は今回、教育図書がいいと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私も東京書籍です。東京書籍の家庭は、持続可能な社会を目指して、この社会を次の世代まで、よりよい形で引き継いでいく使命があるということと、未来を明るく創るのは私たち一人一人の生きる力ですということ掲げています。

一般的に、家庭科というと衣食住のことを簡単に思い浮かべますが、それだけではなく、課題の発見や生活の実践、展開、改善、次への課題というふうに、いろいろと考察があります。そして、生活していく上で、衣類などだけではなく、買物をしたときの効率的な問題点が発生したときの、消費者を守るという法律の観点から学び、環境に及ぼす影響、地球温暖化のことも踏まえて、いろいろと幅広く考えられる様な解説を設けていると思います。

よって、東京書籍です。

○教育長【鍛代英雄】 菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は東京書籍がよいと思いました。いずれの教科書も、図表の配列など分かりやすく、よく工夫されているのですが、最も見やすいのは東京書籍と感じました。また、各ページの下に「生活メモ」という形で、生活に関することわざや語彙が紹介されていて、興味や知識を広げることができるようになっています。

調理では、「私のオリジナル」という形で、オーソドックスなレシピに自己流の材料を追加したり、「エコクッキング」と題して、有り合わせの材料でドライカレーを作ったり、また布作品の制作では、古くなった衣服をリフォームして、ティッシュカバーやペットボトルカバーを作ったりなど、十分なお膳立てがなくても、限られた時間や予算の中で、無駄を省いて生活する工夫が示されていて、将来の現実的な生活に役立つと思いました。

以上から、私は東京書籍が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 では永井委員。

○委員【永井武義】 東京書籍は、衣食住から入る内容で、発達段階を考慮した構成となっています。また、各節が見開き2ページで、「目標」から「まとめよう」までの流れが分かりやすいです。

調理実習の流れでは、渡辺委員の意見とは異なり、好みの問題かもしれませんが、東京書籍と開隆堂出版が横の流れで見やすいと感じました。

教育図書や開隆堂出版は、間食やおやつ、デザートを作る教材があり、興味を引く設定です。また、教育図書は、調理例の下にアレルギー対応の工夫が凝らされています。

浴衣の着方では、東京書籍、教育出版は、帯の結び終わった写真は掲載されていますが、開隆堂出版は絵図のほかにQRコードで結び方が学べる工夫が凝らされています。畳み方は教育図書が詳しく掲載されています。

縫い方やアイロンがけ、シャツの畳み方や収納の工夫は、東京書籍の流れが分かりやすいと思います。

東京書籍はまた、役立つ生活メモが下端に配置され、深める、広がる工夫がされています。

技術分野とは異なる選択ですが、全体を通してバランスがよく、内容も構成も充実していて、東京書籍がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 最後に、私から意見を申し上げます。技術・家庭科の家庭分野につきましては、学習指導要領において、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することを目指すとされており。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、調理実習例が横の流れにレイアウトされていて、教科書を開いた状態で学習できるとともに、布を用いた製作では難易度に幅を持たせた実習例が掲載されています。また、幼児や高齢者、外国の人、障害のある人についての記載、防災訓練、ごみの収集活動、幼児や高齢者との関わりなどの題材が、「家庭生活と地域との関わり」などに示されています。

さらに、日本の伝統や文化に関する教育の充実として、衣食住について、伝統的な日本文化が写真や地図などで取り上げられておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

教育図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍4名、教育図書1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、技術・家庭の家庭分野で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして、外国語の英語でございます。6者から発行されております。

順番に御意見を申し上げます。それでは重田委員から申し上げます。

○委員【重田恵美子】 光村図書出版は、発音も発声も良く、リズムも大変良いのではないかなと思いました。子供の声の場面がありますが、中学生に馴染みやすいというのもありました。テキストの上部に、单元ごとに、何を勉強するところかというのが分かりやすく書かれています。

また、三省堂のほうも、单元ごとにはっきり分かりやすく、文法のまとめも最後のほうに用意されていますし、日本語の説明もあるので、いきなり英語ばかりよりも良いと思いました。発音も良いと思います。

大変迷いましたが三省堂にさせていただきます。

○教育長【鍛代英雄】 それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は、第1に開隆堂出版、ほかに東京書籍、光村図書、三省堂がよいと思いました。

開隆堂出版は、各レッスンの初めに漫画で2人の対話が描かれていて、その中

に重要な新出事項や英語らしい言い回しが含まれており、ペアワークや実際の会話に役立つと思います。また、1年の初めに、ほかの教科書ではbe動詞、一般動詞、canなどの助動詞が交ざって取り扱われているのですが、開隆堂出版では順に導入されるので、小学校で英語を学んでいるとはいえ、混乱が少ないのではないかと思います。

また、1年生の最初に、最も発音を重視しているのは光村図書出版だと思えますが、それに次いで開隆堂出版、三省堂なども発音の基礎を押さえており、開隆堂出版では1年生の巻末にフォニックスの一覧が記載されています。さらに、文法事項が色分けによって最も分かりやすく提示されているのが開隆堂出版だと感じました。

取り扱われている素材も日常的で英語的な言い回しやユーモアが含まれた会話と、スティービー・ワンダーやマンデラ、キング牧師、バスケットボールの誕生、トルコのエルトゥールル号の話といった、英語で読んでおいてほしい、英語で読んだことが思い出に残るような、読み応えがあり、かつそれほど難解でない題材とがバランスよく配置されていると思いました。

以上から、私は開隆堂出版が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 各者独自の工夫で、学習の見通しや流れが示され、4技能5領域の活動について配置されています。小学校では、外国語が教科として始まっていますが、接続としては各者遜色ない印象です。

各者とも、4人から6人の国際色豊かな登場人物を中心に、中学校生活を送るストーリーですが、光村図書出版は1年生から3年生まで学校行事や季節の特徴が示され、一貫して中学校生活と沿った展開となっているため、登場人物になったように興味や関心を抱かせ、内容理解や困難に対応する工夫が見られます。

開隆堂、光村図書出版は、「retell」が配置され、光村図書出版はストーリーリテリングが8つのユニット全てにあります。話す力や書く力を深めるとともに、コミュニケーション能力、考え、話し合い、深める活動につながると思います。

また、光村図書出版は、英語の学び方のガイドが各学年に設けられ、1年生では、なぜ英語を学ぶのか、小学校とはどこが違うか、学ぶポイントが示され、3年生では、量が増えて不安に思うこと、将来との結びつけなど、生徒に寄り添った工夫が見られます。

菅原委員の御指摘にもありましたが、光村図書出版は発音を重視しているのも特徴で、実用的な内容だと感じます。

以上のようなことから、光村図書出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各者ともに、小学校の英語授業が始まったわけですが、連携は意識されていると感じました。また日本文化の理解、及び国際理解を深めるという視点も考慮されていると感じました。

その中で三省堂は、單元ごとにストーリーや授業の狙いが明示されていて、聞く、読む、発表する、やり取りする、書くという学級活動があり、文法のまとめ

も用意されています。それから、写真や易しい分かりやすい図絵も多い。また、日本語の解説が比較的多くあって、生徒には、英語を遠いものと感じずに、親しみやすいものを感じやすくするような工夫がされていると感じました。

それから、歌やつづりと発音、そのほか、基本文の在り方、簡単ないろいろな単語のことや、辞書的な働きなどのものも、後編の付録に用意されていると思います。

私は三省堂がいいかなと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 それでは、最後に私から意見を申し上げます。学習指導要領において、英語を履修することを原則とされており、外国語科につきましても、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指すとされています。

各発行者のうち、三省堂の教科書は、パートごとに身につけるべき言語材料が示されていて、学習内容を意識して言語活動に取り組めるよう工夫されています。また、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする、分かりやすく書き、発信するなど、様々な言語活動に繰り返し取り組めるよう構成されています。

さらに、他者・他国との違いを認め、自分の可能性を広げることができるよう、1年生では車椅子バスケットボール、2年生では将来の夢、そして3年生ではキング牧師が取り扱われており、読み物教材がとても豊富で読み応えがありますので、三省堂の教科書がよいと考えます。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、まず東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。

開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

三省堂がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。開隆堂出版1名、三省堂3名、光村図書出版1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、外国語の英語で使用する教科用図書は、三省堂のものと決定いたしました。

続きまして、「特別の教科 道徳」でございます。7者から発行されております。

では、順次御意見をお願いいたします。菅原委員からお願いします。

○委員【菅原順子】 私は、第1に教育出版、次いで東京書籍がいいと思いました。どの教科書も、中学生にとって身近な課題、また身近ではなくとも考えなければならない課題がバランスよく掲載されているのですが、特に教育出版は、問いかけと考察の構成が最も優れていると思いました。

各教材の冒頭に、何について考えるかという具体的な問いかけがあり、それが指針となって、生徒が明確な問題意識を持ちながら読み進めやすくなっています。

末尾の考察も、3つの発問で成り立っており、1つ目で読んだ素材に沿っての考えをまとめ、2つ目で話し合いなどを経て考えを広げ、3つ目で、あなたは、あなたなら、という問いかけに自分事として答えるというように、学びを深めやすい構成になっていると思います。

巻末の、学期ごとの振り返りも、学んだこと、考えたこと、心に残ったことを文章で記入するようになっており、振り返りシートとして有意義であると思います。

取り上げられている人物も、著名人というよりも、社会の目立たないところで自分の職務や責任を果たしている人が多く、生徒の視野を広げ、自分に照らして考えやすい内容になっていると思います。

以上から、私は教育出版が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 　　では永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 　　各者とも4つの視点と22の内容項目に関わる分類表が配置され、生徒の理解が深まる構成上の配慮がされています。

光村図書出版では、現代的な課題等との関わりや、他教材・他領域との関わりが表記され、工夫があります。廣済堂あかつき、日本教科書は、内容項目が語句のみでなく文章で示されて、理解しやすいです。

日本教科書は、指導要領の内容項目順に教材が配置され、教材の順に縛られることなく、各校や学年の特色、方針等により、教材を組み替えて学習することが可能です。

郷土の先人として、教育出版、日本文教出版、日本教科書は二宮尊徳を取り扱っています。

日本教科書は、中学校3年の集大成の時期に、勤労について、家庭を支えたり、社会とのつながりを多角的視点で考え、議論を深める教材として取り上げています。また、「リョウとマキ」は、各学年にまたがるストーリー展開の教材で、思春期ならではの興味や関心を抱かせ、自分を見つめたり、他者との関わりを考え、発達段階の変化を捉える工夫が見られます。また、日本教科書は、編集者、執筆者に、17人中13人と小中学校教員の割合が高く、現場の声を教材づくりに反映させる工夫、印象があります。

以上のようなことから、私は日本教科書がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 　　渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 　　私は、教科としての道徳がここで大きく変化してきているのかと思いました。道徳の授業は、これまでも50分で授業が行われております。ところが変更があって、何が付け加わったかということ、議論するというところで、授業の中で、子供たちが教材を考えて、その中から課題や印象に残ったことなどを、先生が提示した内容などに沿って議論し合うということ。それからもう1つは、最後に評価するということ。

ですから、これまで50分で行われていた授業以上に、さらにそれだけの時間

を、50分の中で確保していかなければいけないという要素が生まれているということです。

その中で、40人の子供たちが、道徳の場合、特に資料を読んだときに、資料を何ページかどンドン読んでいきます。この読み終わった資料が、完全に子供たちに理解されないと、次に幾ら展開しても授業にならないんです。こういう要素も、なかなかほかの教科の授業とは違うと思います。

その中で、私の視点として、この資料そのものの中身も見ましたが、文章の量がどのくらいか。もちろん図絵や写真などはどの教科書にもあります。そういう中で、文章量がどのくらいかということ、全教科書、比較しました。

4ページ以上ある資料の比率を調べましたら、4ページ以下の資料数が、日本文教出版は77%でした。学研教育みらいが74%でした。東京書籍が68%でした。この辺が、3分の2ぐらいがあまり長くないような編集で文章が作られていると感じます。

もう1つは、どの教科書にも考える視点などがいくつか用意されています。ですから、子供は考える視点があるんです。そこへ持ってきてさらに、特設の学習指示や、発展的学習内容が用意されていると、なかなかこれはやり切れるものではないのかなと思いました。

そういう中で考えると、教育出版は、そういう特設なものがあったのが8でした。東京書籍が10でした。光村図書出版は12でした。日本教科書も12でした。そのほかの教科書会社はすごく多い。授業の中でとても扱い切れるものではないと感じました。

その中で、東京書籍が、結局、教材の文章量や学習発展のための指示や、発展的内容もまあまあ適切な量かなということ。それから扱われている内容が、いじめに関すること、情報モラルに関すること、生命の尊重、相互理解のこと、社会参画のこと、遵法精神のこと、家族愛や郷土愛や我が国の文化等、このような内容が網羅されておりました。内容の中に、興味・関心を引きやすい人物が扱われたり、連想しやすい挿絵なども結構使われていると感じた次第です。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は東京書籍がいいと思います。読み物と同じページに書き込めるところがあるということと、考えて議論する、話合いの手引というのがあります。体験学習の中で役割演技をするのですが、その演技の中で、自分のこととして捉えるということ、そして自分を見つめようという振り返りもあり、大切なことと思います。

また、外交官だった杉原千畝さんが、命のビザで6,000人のユダヤ人を助けたという記録が掲載されており、1人でも多くの中学生に読んでもらいたいということもあり選びました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 では、最後に私から意見を申し上げます。道徳科につきましては、学習指導要領において、道徳教育の目標に基づき、よりよく生きる

ための基礎となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるとされています。

各発行者の教科書はそれぞれ特色がありますが、道徳科の授業は、教科書の中の各教材に含まれている道徳的価値を一方的に子供たちに理解させるものではなく、教材を手がかりとして、生徒たちが道徳的価値について考え、クラスの仲間たちとの議論などを通して、生徒たちの道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるもので、他の教科以上に教師の創意工夫が大切です。

このため、教師が自由に教材を扱うことができ、ワークシートやノートを使って授業内容を工夫できるという観点から、道徳ノートなどの別冊のないもの、中学校の1単位時間は50分ですが、教材を読んだ後に生徒たちが考え、議論することを考慮すると、一つ一つの教材があまり長くないものが望ましいと考えます。

各発行者のうち、東京書籍の教科書はこうした要件を満足しており、さらに導入で問題を発見し、教材を読んだり、グループで話し合いをしたりすることで問題解決を図ることができる教材が設定され、また各教材の末尾に、自己を振り返るために「自分を見つめよう」という発問が設けられておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

ほかに何か御意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは採決に入らせていただきます。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

まず東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いします。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いします。

学研教育みらいがよいという方は挙手をお願いします。

廣済堂あかつきがよいという方は挙手をお願いします。

日本教科書がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍3名、教育出版1名、日本教科書1名でございました。よって、令和3年度伊勢原市立中学校、「特別の教科 道徳」で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

以上をもちまして、議案第11号「令和3年度伊勢原市立中学校使用教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。

----- ○ -----

日程第5 議案第12号 令和3年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について

○教育長【鍛代英雄】 続いて日程第5、議案第12号「令和3年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 議案書の57ページになります。議案第12号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項及び第14条、並びに学校教育法附則第9条の規定に基づき、令和3年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

58ページから61ページに、教科用図書一覧を掲載しております。令和3年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書については、各学校において児童生徒一人一人のニーズに合わせた教科用図書を使用するため、学校教育法附則第9条の規定に基づき、文部科学大臣の検定を経た教科用図書以外の一般図書、及び文部科学省が著作の名義を有する教科用図書の中から、教科用図書として選定いたしました。よって、これら選定した教科用図書について、採択したいというものです。

なお、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条第1項の規定により、文部科学大臣の検定を経た教科用図書以外の図書を選定する場合は、1年ごとの採択となります。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。御質問等がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。それでは採決に入らせていただきます。議案第12号「令和3年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」、賛成の方は挙手をお願いします。

○教育長及び委員全員 挙手

○教育長【鍛代英雄】 挙手全員。よって、本案は原案のとおり可決決定いたしました。

----- ○ -----

その他

○教育長【鍛代英雄】 続きまして「その他」でございますが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

それでは、事務局から何かありますか。

特にないようですので、最後に、来月の定例会の日程をお願いします。

○教育総務課長【熊澤信一】 次回の定例会につきましては、8月25日の火曜日、午前9時30分より、市役所3階の第3委員会室におきまして開催をいた

します。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 それでは、本日の教育委員会議はこれをもって閉会といたします。どうもありがとうございました。

午前11時53分 閉会

----- ○ -----

<添付資料>

議案